

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2018 年 10-12 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲9 となり、2 期連続で改善した。経営上の問題点を見ると、6 期連続で「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2018 年 10-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 17%で前回調査（2018 年 7-9 月期 20%）より 3 ポイント改善した。「好転」とした企業は 8%で前回調査（8%）と同水準であった。景況判断 DI は▲9 となり、前回調査（▲12）より 3 ポイント改善した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2018 年 7-9 月期に対して、

- ・売上高 DI は 14 で、18 ポイント改善
- ・処理量 DI は 11 で、17 ポイント改善
- ・契約単価 DI は 7 で、1 ポイント改善
- ・営業利益 DI は▲1 で、9 ポイント改善
- ・資金繰り DI は 2 で、4 ポイント改善
- ・借入難易度 DI は 10 で、3 ポイント改善
- ・設備投資 DI は▲1 で、1 ポイント悪化
- ・従業員数 DI は▲5 で、7 ポイント悪化

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲22 となり、13 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 11.1%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 0.4%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.44%で前回調査（5.46%）より悪化した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」26.9%（前回 24.4%）が 6 期連続で 1 位となった。

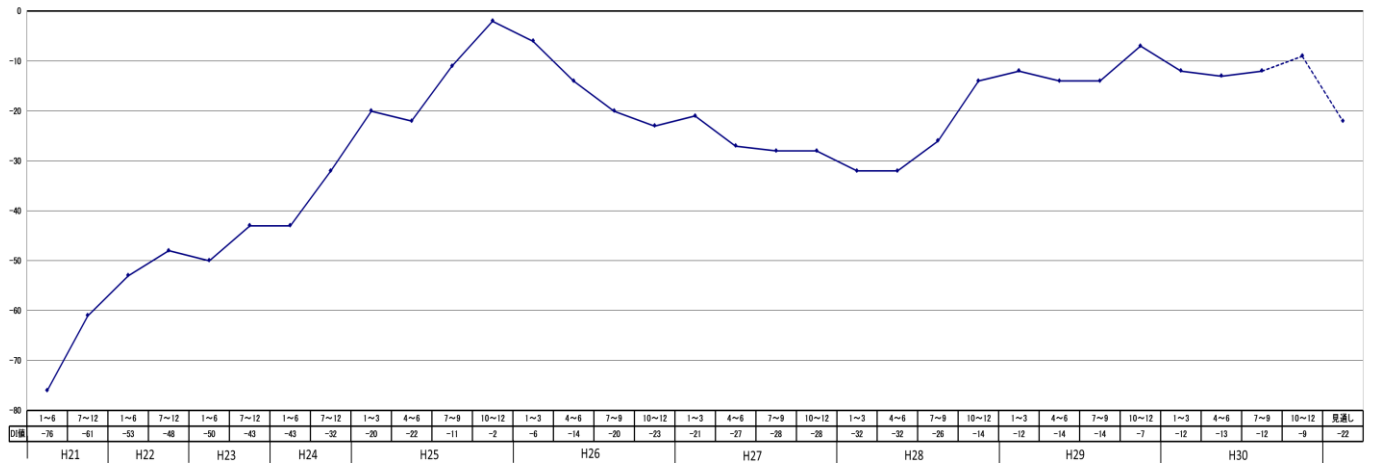
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

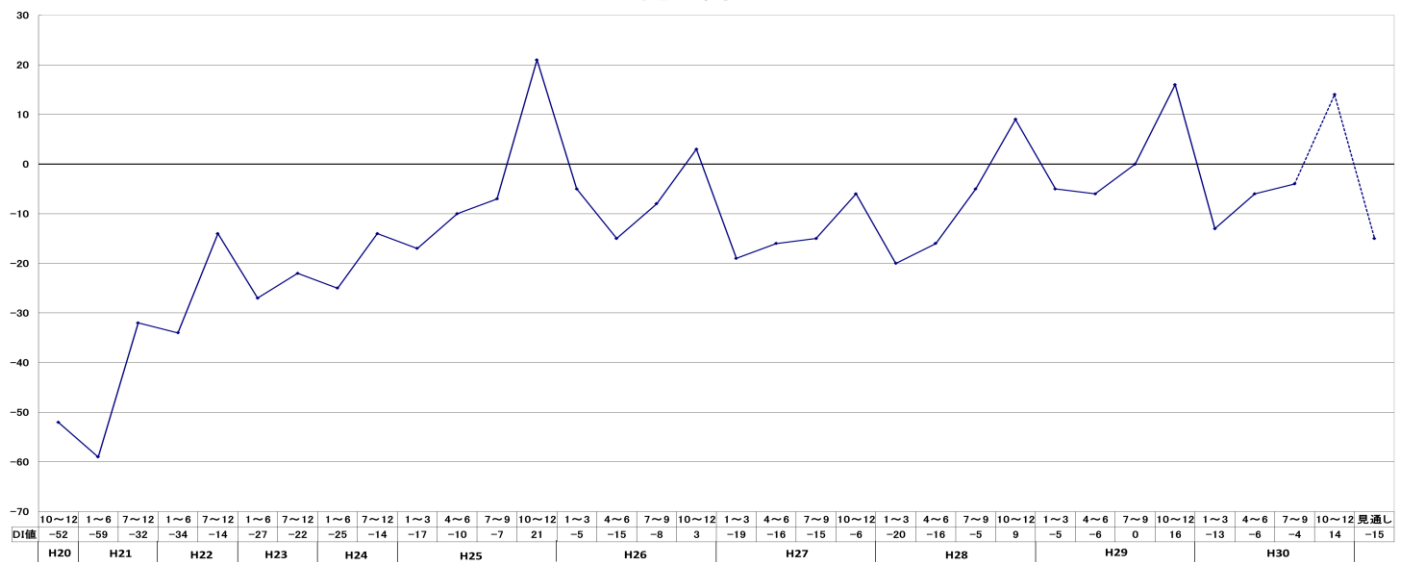
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 31 年 1 月 22 日～3 月 1 日
- 回答企業数：357 社

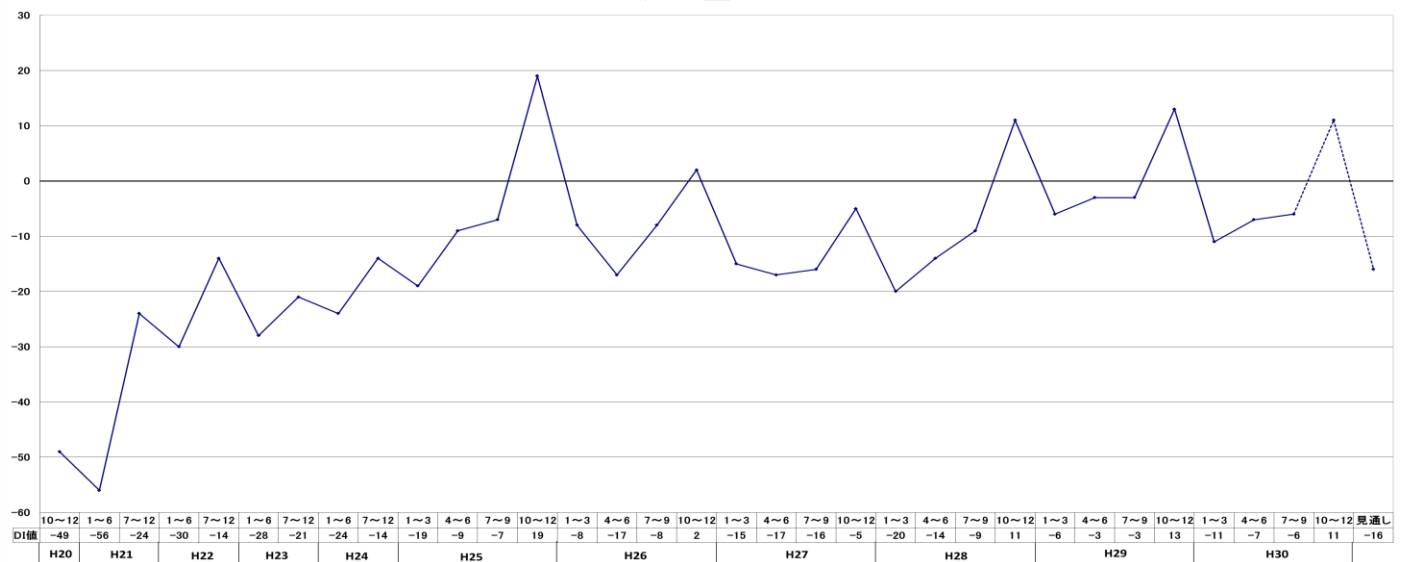
景況判断DI



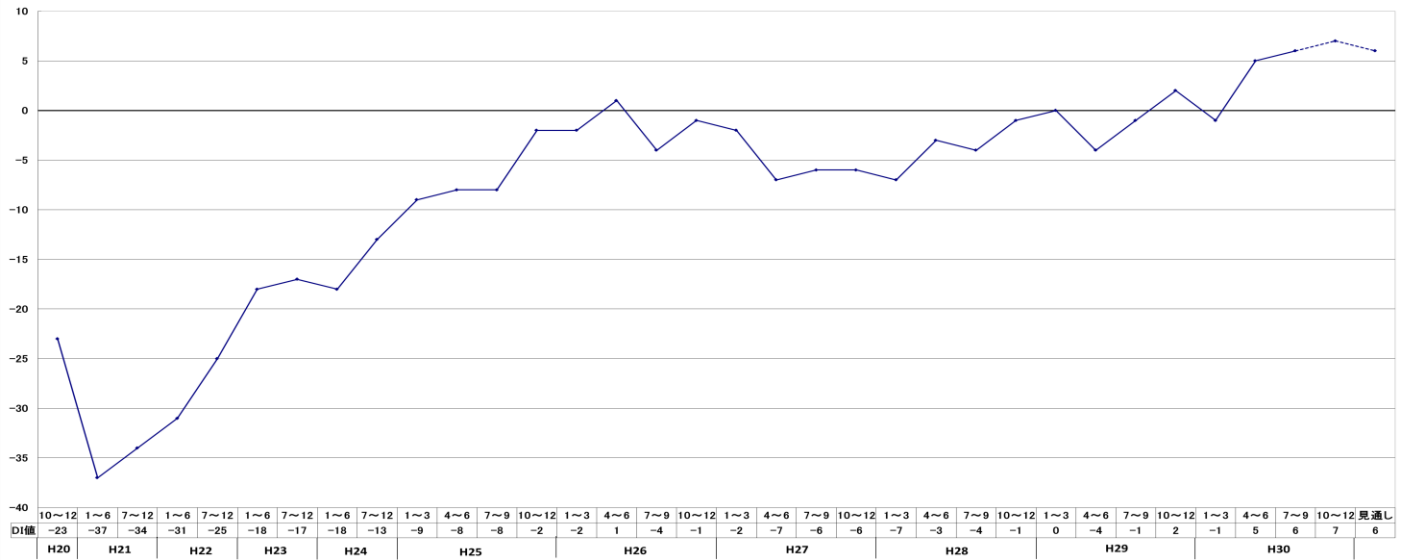
売上高DI



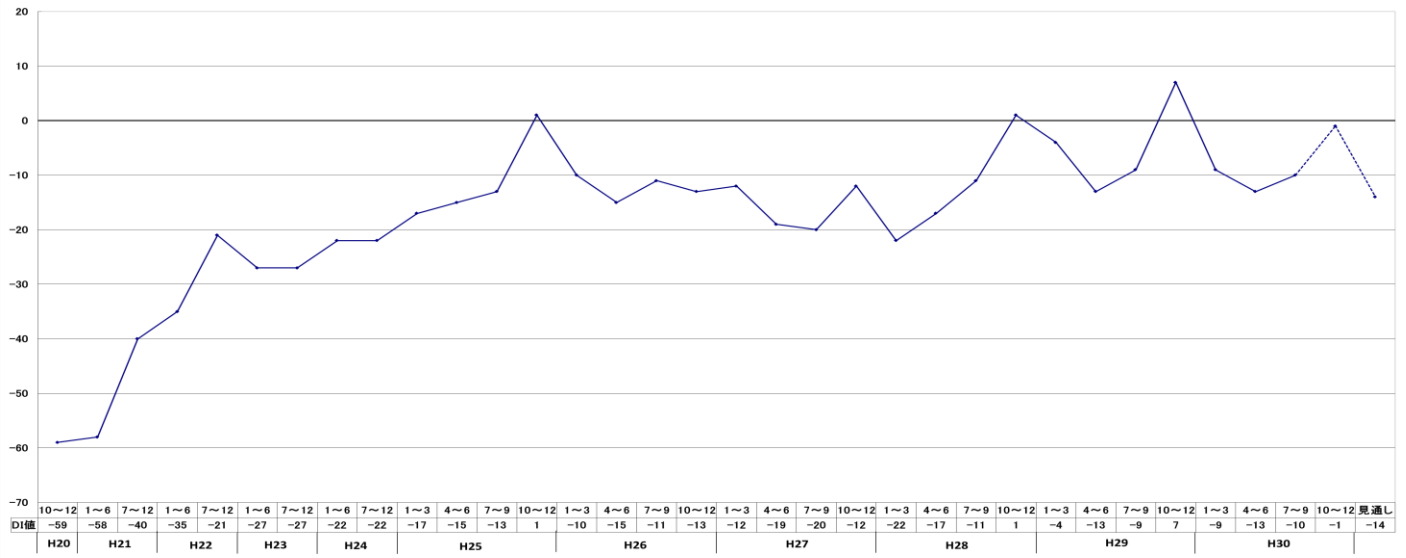
处理量DI



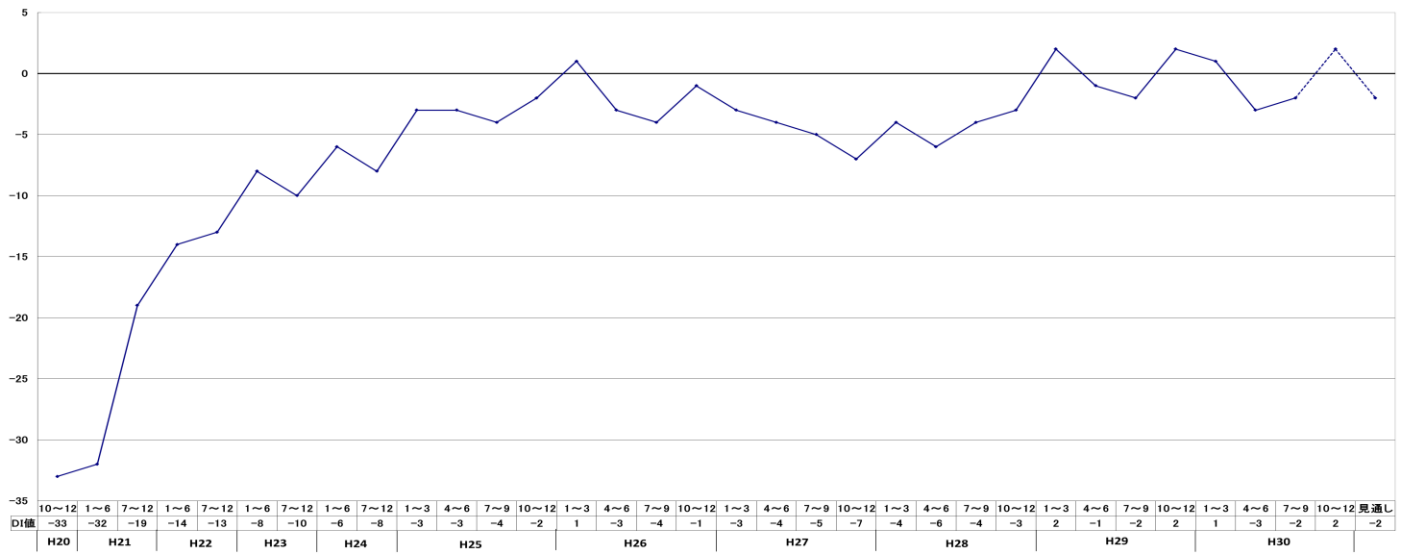
契約単価D



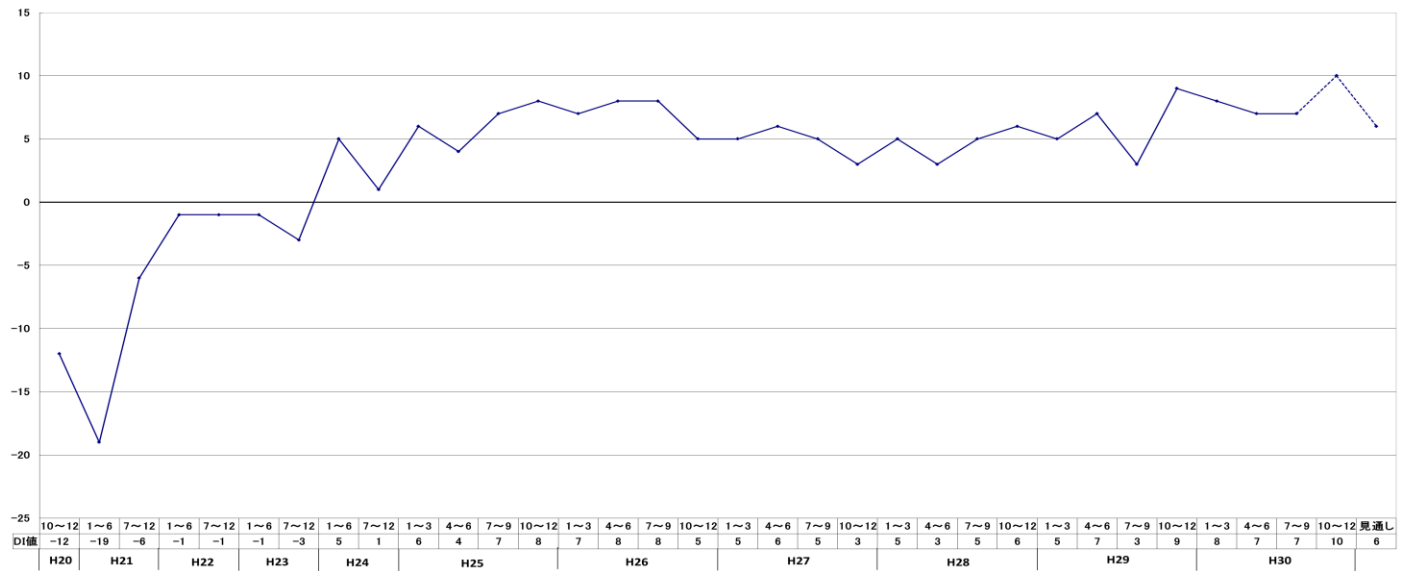
営業利益D



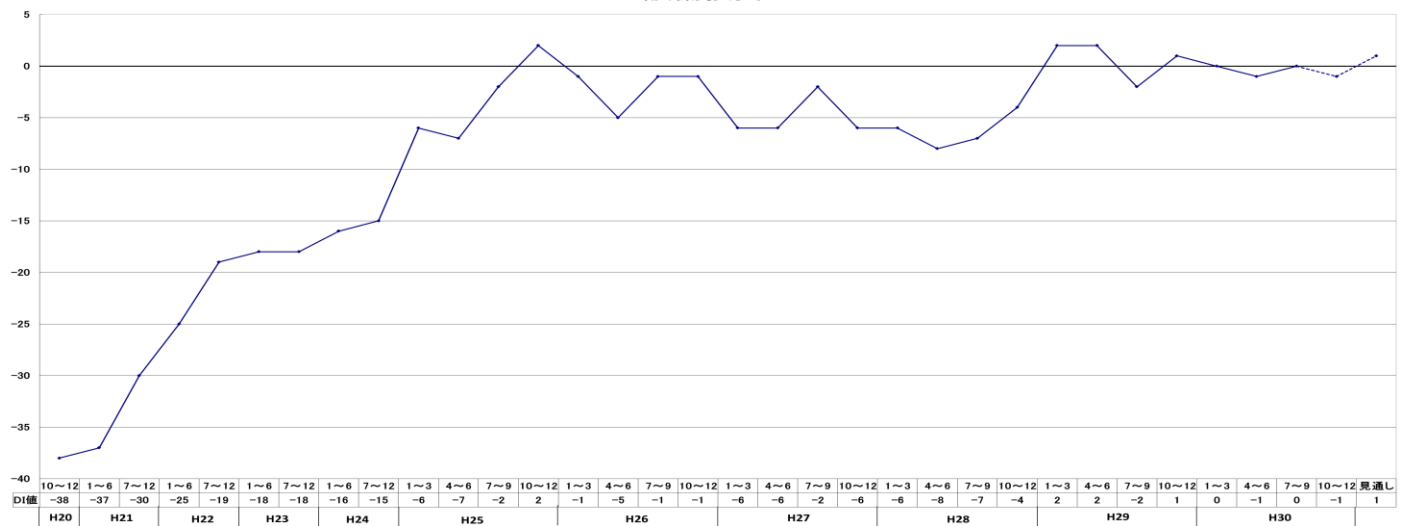
資金繰りDI



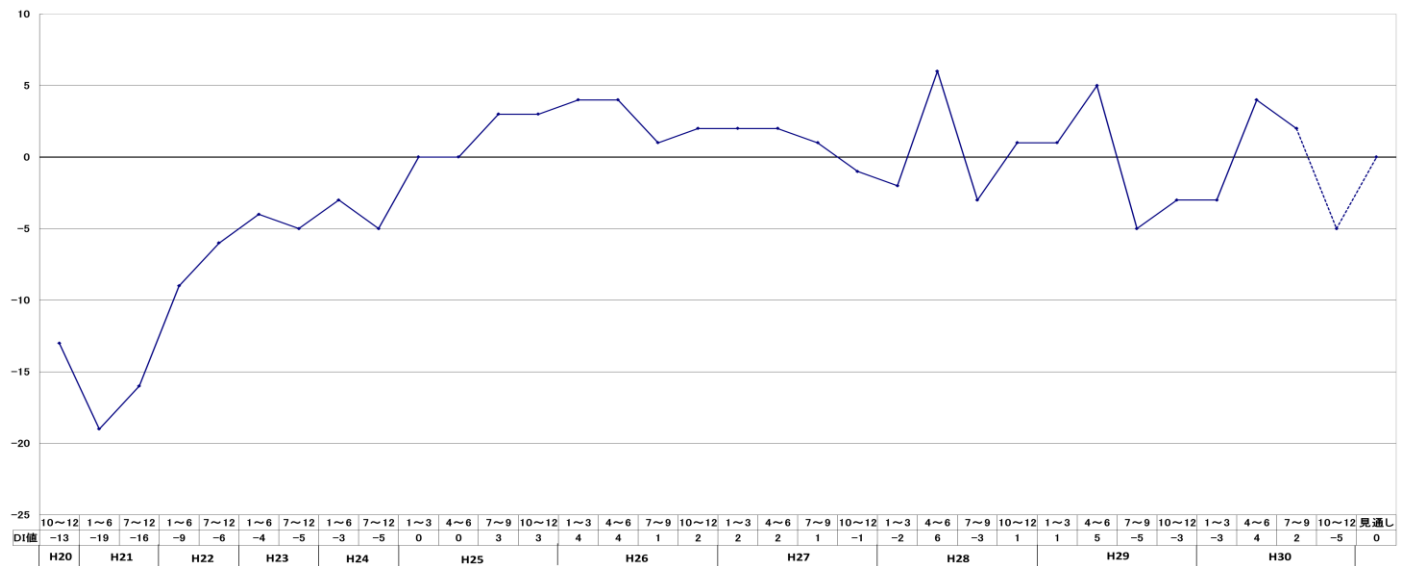
借入難易度DI



設備投資D



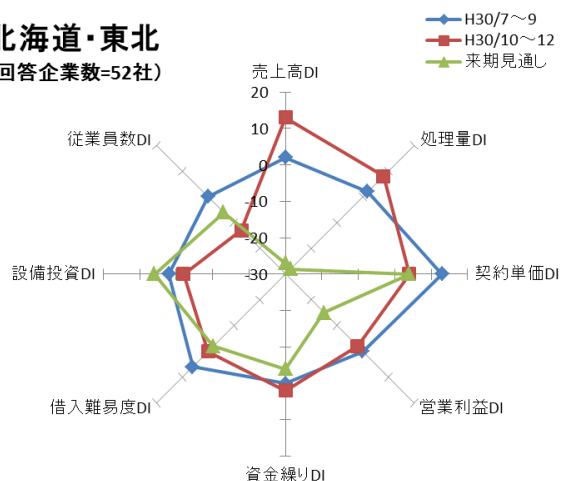
従業員数D



【地域別レーダーチャート】

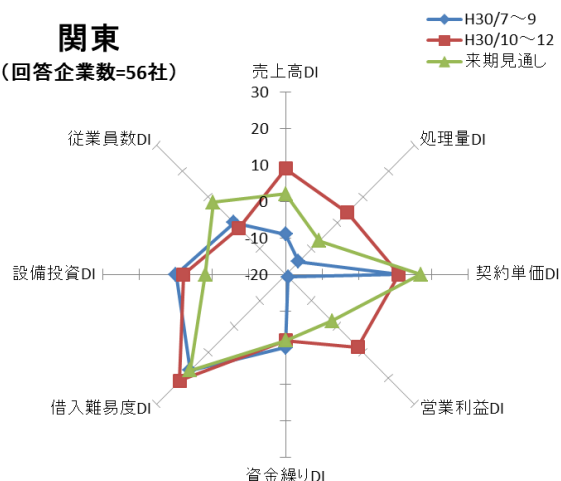
北海道・東北

(回答企業数=52社)



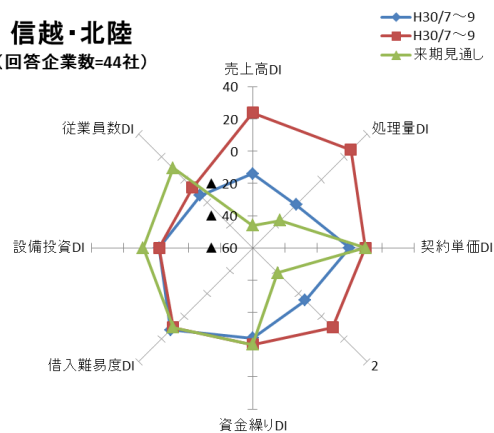
関東

(回答企業数=56社)



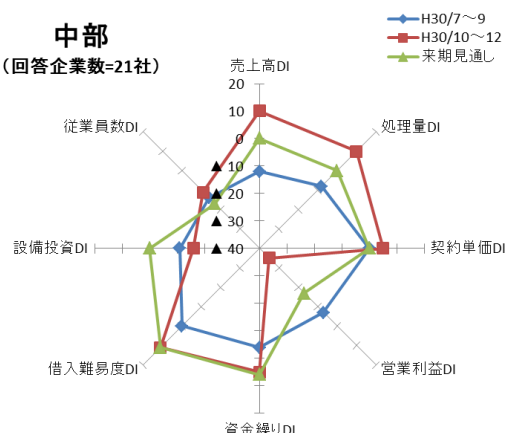
信越・北陸

(回答企業数=44社)



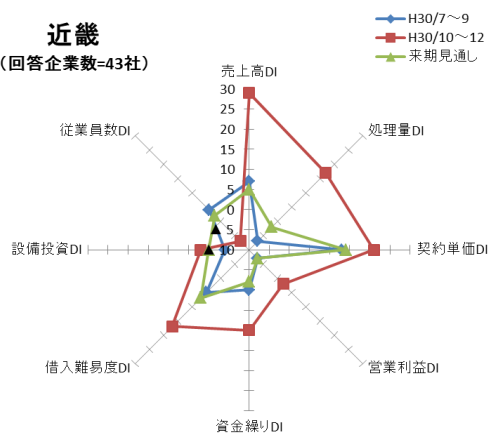
中部

(回答企業数=21社)



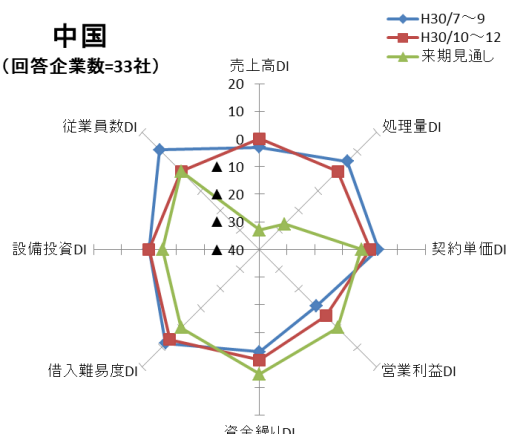
近畿

(回答企業数=43社)



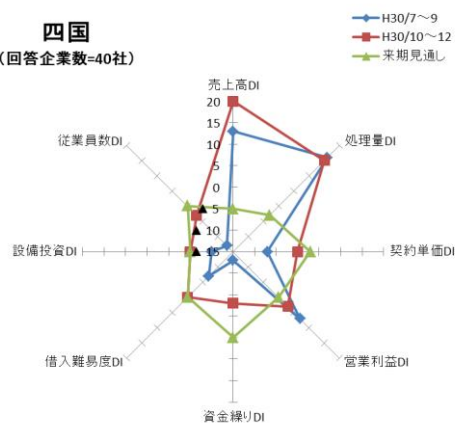
中国

(回答企業数=33社)



四国

(回答企業数=40社)



九州・沖縄

(回答企業数=68社)

